

お知らせ

- 4月から田崎甫は東京藝術大学音楽学部教育研究助手を勤めます。週3日、邦楽科の学生に「能」を教えます。
- 5月から、山梨県都留市で「友垣サロン」を年4回開催します。第1部 体験教室、第2部 鑑賞教室 出演：田崎甫・葛野りさ 主催：田崎甫、後援：都留宝生会、協賛：粟井英郎環境財団
- 7月から、2年目の「臥牛サロン」は新企画になります。(下記)

臥牛サロン 新企画

- 複数の曲に共通するテーマを解説し、各曲の謡と仕舞の見どころをたっぷりお楽しみ頂きます。
- サロンの開催は、奇数月（隔月）の下旬となります。
- 時間：18:30-20:00、参加費：自由席2,500円、椅子指定席3,000円
- 新企画初回： 7月29日（月）18:30~20:00



田崎 甫
はじめ

シテ方宝生流職分
1988年 神奈川県生まれ、
叔父の宝生流能楽師 田崎
隆三に師事。2011年東京藝
術大学音楽学部邦楽科卒業、
20代宗家宝生和英の内弟子。
同年「金札」で初シテ。
2018年独立。九段「幸宝
会」主宰。2019年4月東京
藝術大学音楽学部教育研究
助手を拝任。



葛野 りさ
かどの

シテ方宝生流職分
平成元年生、富山県
富山市出身。20代宗
家宝生和英に師事。
平成23年東京藝術大
学音楽学部邦楽科卒
業。平成24年「清
経」ツレにて初舞台
を踏み、平成29年
「田村」で初シテ。

出演者

臥牛サロン

第12回 6月17日（月）18:30～ サロン1周年記念 能「半部」ほか
第13回 7月29日（月）18:30～ （新企画）

お稽古：臥牛敷舞台にて【個人レッスン：謡・仕舞】

5月20日（月）
6月17日（月）
6月26日（水）

お時間はお問合せ下さい。
※見学・舞台体験歓迎

臥牛サロン次回ご予約・お問合せ

☎ 0545-38-9939 (たざき) 📠 090-2757-0620

二〇一九年五月二十日(月)

臥牛サロン 第十一回

能 杜若の物語

プロデューサー

田崎 甫

(宝生流能楽師)

於 臥牛敷舞台

富士宮市粟倉南町一三二

舞台当主 高橋千洋

(富士宮市中央町在住)

一 ご挨拶・初同(曲の最初の地謡)

ニ シテ、ワキ掛け合い

三 クセ(曲の核となる部分)

四 キリ(曲の終結部分)

五 サロンタイム

「杜若」(かきつばた)

季節 初夏

場所 三河国八橋(愛知県知立市八橋町)

シテ 里の女(杜若の精)

ワキ 旅の僧

杜若初同

1 在原の跡な隔てそ杜若
跡な隔てそ杜若
3 沢辺の水の浅からず
契りし人も八橋の蜘蛛手に物ぞ思はるる
5 今とても旅人に
昔を語る今日の暮れやがて馴れぬる心かな
7 やがて馴れぬる心かな

シテ、ワキ掛け合い

なうなう此冠唐衣御覽候へ
9 ふしぎやないやしき賤の臥所より
色もかかやく衣を着
11 透額の冠を着し
これ見よと承る
13 こはそもいかなる事にて候ぞ
これこそこの歌に詠まれたる唐衣
15 高子の後の御衣にて候へ
又此冠は業平の
17 豊の明の五節の舞の冠なれば

シテ・ワキ掛け合い(続き)

19 形見の冠唐衣
身にそへ持ちて候なり
冠唐衣はまづまづ置きぬ
21 さてさて御身はいかなる人ぞ
真は我は杜若の精なるが
植えおきし昔の宿の杜若と
23 詠みしも女の杜若に
なりし謂の言葉なり
25 又業平は極楽の
27 歌舞の菩薩の化現なれば
詠み置く和歌の言の葉までも
29 皆法身説法の妙文なれば
草木までも露の恵みの
31 仏果の縁を弔ふなり

杜若クセ

33 然れども世の中の 一度は栄え一度は
衰ふる理りの真なりける身の行くへ
35 住み所もとむとて 東の方に行く雲の
伊勢や尾張の海づらに立つ浪を見て

杜若クセ(続き1)

37 いとどしく過ぎにし方の恋しきに
羨しくも
39 帰る浪かなと打ち眺め行けば信濃なる
浅間の嶽なれや くゆる煙の夕景色
41 偕こそ信濃なる 浅間の嶽に立つ煙
遠近人の
43 見やはとがめぬと口ずさみ猶遙々の旅衣
三河の国に着きしかば
45 ここぞ名にある八橋の 沢辺に匂ふ杜若
花紫のゆかりならば
47 妻しあるやと思ひぞ出づる都人
然るに此物語 其品多き事ながら
49 取り分き此八橋や 三河の水の底ひなく
契りし人々の数々に 名をかへ品をかへて
51 人待つ女物やみ玉簾の光も乱れて飛ぶ螢の
雲の上まで往ぬべくは 秋風吹くと
53 かりにあらはれ衆生済度の我ぞとは知るや
いなや世の人の
55 暗きに行かぬ有明の 光普き月やあらぬ

杜若クセ(続き2)

57 春や昔の春ならぬ我が身一つは
もとの身にして
59 本覚真如の身をわけ陰陽の神といはれしも
唯業平の事ぞかし
61 かやうに申す物語うたがわせ給ふな旅人遙々
きぬる唐衣 着つつや舞をかなづらん
63 杜若キリ
匂ひうつる 菖蒲の鬘の
色はいづれ 似たりや似たり
65 杜若花菖蒲梢に鳴くは
蝉のからころもの
67 袖白妙の卯の花の雪の
夜もしらしらと
69 明くる東雲のあさ紫の
杜若の 花も悟の心ひらけて
71 すはや今こそ草木国土
すはや今こそ草木国土
73 こそ 失せにけれ